

大多喜ダム建設事業に関する事業再評価資料

再評価実施事業調査表

| | | | | | | | | |
|-----------|--------|--------|----------|--------|----------|--------|------------|--|
| 番号 | | 事業名 | 大多喜ダム建設 | | 路線又は箇所名等 | | 夷隅郡大多喜町西部田 | |
| 事業所管課 | | | 河川整備課 | | 事業主体 | | 千葉県 | |
| 事業化年度 | 平成 3 年 | 用地着手年度 | 平成 7 年 | 工事着手年度 | 平成 8 年 | 再評価の理由 | ⑤ | |
| 費用便益比 B/C | 1.12 | 総費用 | 183.6 億円 | 総便益 | 205.2 億円 | 基準年 | 平成 18 年 | |

事業概要

(目的)

- ・ 洪水調節：沢山川のダム地点で計画高水流量 70m³/s のうち 60m³/s の洪水調節を行い、夷隅川合流点前で基本高水流量 120m³/s を 60m³/s へ軽減する。
- ・ 流水の正常な機能の維持：ダム地点下流の沢山川、夷隅川沿川の既得用水の補給を行う等、流水の正常な機能の維持と増進を図る。

(主な実施内容)

ダム高：32.5m、堤頂長：312.0m、堤体積：547,200m³、総貯水量：1,300,000m³
 有効貯水量：1,150,000m³、湛水面積：約 17ha、付替町道：4km、
 水没戸数：1 戸、道路没戸数：2 戸

事業の進捗状況

| | 全体計画 | H18 年度まで実績 | 進捗率 |
|-------|---------|------------|-------|
| 全体事業費 | 145 億円※ | 67.1 億円 | 46.3% |
| ダム本体工 | 1 式 | 未着工 | 0% |
| 付替道路工 | 3,819m | 2,207m | 57.8% |
| 用地補償 | 54.8ha | 51.5ha | 94.0% |

※ 現共同ダム事業費

社会経済情勢等

①災害発生危険度

1) 洪水

ダム地点近傍の大多喜観測所では、平成 16 年 10 月には、総雨量 323mm の降雨があり、下流では溢水被害が生じた。

2) 渇水

利水については、古くから農業用水、水道用水及び工業用水として利用されている。平成 6 年の渇水においては御宿町において 48 日間の給水制限が行われたが、近年は渇水被害は発生していない。

②地域開発・利水事業の状況

平成 19 年 5 月に、南房総広域水道企業団による水道事業の再評価結果として「利水者としてはダム事業への参画を中止する」との報告を受けた。企業団による再評価報告には「水需要は、一日最大給水量に対して、構成団体の自己水源を充当して不足分を企業団からの受水必要量とする」と、平成 27 年度の需要量推定値 122,099m³/日に対して、自己水源充当量 84,886m³/日、企業団からの必要受水量 38,104m³/日となる。受水量の最大は、平成 24 年度の 40,146m³/日(現給水能力：42,330m³/日)であるが、その後水需要は減少が続き、受水量も減少に転じることから、既存水源で対応できる。」と総括されている。

③投資効果

浸水戸数：86 戸、浸水面積：51.0ha、道路：0.9km

④事業の進め方

南房総広域水道企業団のダム事業への参画中止を受けて大多喜ダム事業を再評価した結果、残事業費を考慮しても治水代替案である河道改修の方が経済的である。また、不特定利水についても緊急性が低下傾向にあると判断される。よって、大多喜ダム事業は中止する。

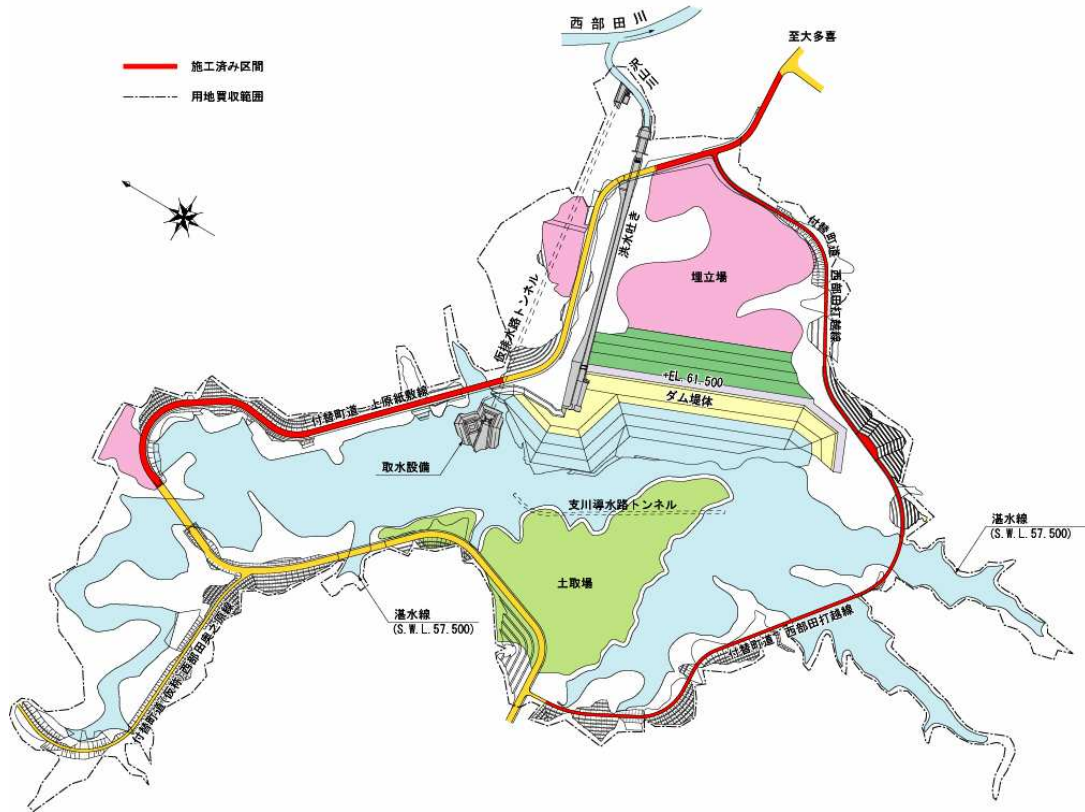
対応方針(案)

大多喜ダムは中止とする。今後は、治水については夷隅川水系河川整備計画において、不特定利水については夷隅川水系河川整備基本方針における正常流量検討の見直しに併せて対応していく。

事業概要図

| | | | | |
|----|-----|---------|----------|------------|
| 番号 | 事業名 | 大多喜ダム建設 | 路線又は箇所名等 | 夷隅郡大多喜町西部田 |
|----|-----|---------|----------|------------|

計画平面図



ダム標準断面図

